家族の一員として

日頃より、本校の教育活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

感染予防に「ソーシャルディスタンス」は大切です。そうした今だからこそ、学校と家庭の心をつなげたくて、保護者の皆様にメッセージをお届けします。

全国に「緊急事態宣言」が出され、生活の在り方も少し変わってきました。特に、仕事の仕方が様変わりしたように感じています。３月から学校は、家庭に一人ではおいておけないお子様を特別の措置としてお預かりしています。感染拡大防止の趣旨をご理解いただき、預かりの児童は日によって異なりますが、最小限となっております。各ご家庭で、熟考いただいていることに、感謝申し上げます。職種によっては、在宅勤務ができない方や休めない方もいらっしゃいます。預けられる子供たちも、子供たちなりに状況を受け止め、学校でがんばってくれています。もちろん、おうちでお留守番をがんばってくれている子もたくさんいるはずです。

先週あたりから、テレワーク等が始まり「明日は、家で仕事をするので預かりは大丈夫です」「来週から一日おきに自宅待機になるようなので、学校に預けない日を記しておきます」といった声を聞くようになりました。

また、「先生方は休まれているんですか」「学校で預かってもらえるので、安心して仕事ができます」という声を掛けてくださる方もいます。後ろ髪を引かれる思いで学校を後にされる保護者の皆様に、少しでも安心していただけるように「行ってらっしゃい」と声を掛けさせていただいています。

誰も経験したことのない長期の休校ですが、お子様の様子はいかがでしょうか。生活リズムは崩れていないでしょうか。特に、子供たちの心の面が心配です。先が見えない状況が続くことで、不安になったり、「どうせやっても」とやる気を失ったりするなど、精神面で不安定になってしまうことが懸念されます。

ぜひ、家族の一員として、お手伝いをさせてください。そして、お手伝いをしてくれたことに「ありがとう！助かったよ」と声を掛けてください。大人にとってはこんなことと思うことでも、子供にとっては「次もがんばろう」という意欲や、「自分も役に立ったんだ」と自己有用感を持つことができるのです。

また、一日の計画を立てさせてください。そして、取り組めた時には「計画通りに進められるってすごいことなんだよ。えらいね」と褒めてください。それが達成感につながります。何より家族のコミュニケーションがそこにはあります。こうした時だからこそ、いつもより会話を楽しめるとよいのではないでしょうか。そしてもし、不安そうな表情が見られた時は、お子様の声に耳を傾けてあげてください。

世界中が未曾有の出来事に直面し、懸命に戦っています。大人も子供も力を合わせて、大事な命を守るために努力しています。この努力の結果はすぐには分からないけれど、きっと未来を変えることができるはずです。

令和２年４月２０日（月）

校長　萩原　美樹